

公開シンポジウム

『モンsoonアジア地域における飼料自給率向上に向けて』

“Towards the Improvement of Forage Self-Sufficiency Ratio in the Monsoonal Asian Regions”

日時： 3月18日（火）9：00－12：00

場所： A会場（東館2F 日向）

企画者： 宮崎大学農学部教授 西脇亜也

<開催趣旨> 国産による飼料の利用拡大によって飼料自給率を向上させていくことは、わが国のみならず、モンsoonアジア地域に共通した畜産の抱える課題だと考えられますが、当地域は、高温多湿の気候条件のため、濃厚飼料や乾草などの貯蔵飼料の生産が困難です。そのため、サイレージ生産による貯蔵粗飼料生産等がおこなわれてきましたが、近年では、飼料用米や子実とうもろこしの濃厚飼料化、未利用資源のエコフィード技術開発等が行われています。そこで、タイ、インドネシアの研究者、国産飼料生産に取り組む農業法人、宮崎県内の研究者等を招き、モンsoonアジア地域での飼料自給率向上に向けた技術的な課題についての国際シンポジウムを開催いたします。

<プログラム>

1. 「国産飼料100%の牛肉生産を可能にした地域の農家や企業と連携した飼料生産・供給体制の実現」
高橋 徹弥 取締役（株式会社 なごみ農産, 山形県天童市）
2. “Utilization of layers by-products as a feedstuff for milk production and quality of dairy cows in South Sulawesi, Indonesia”
Associate Professor, Dr. Renny Fatmyah Utamy（インドネシア・University of Hasanuddin）
3. “*Cichorium intybus*, new forage in Indonesia: Adaptation, production and function to improve animal production”
Professor, Dr. Nafiatul Umami（インドネシア・University of Gadjah Mada）
4. “Utilization of tropical forage in many locations, such as yield, adaptation of tropical grass, and nutrition, to select the good adaptation grass for breeding in Thailand”
Lecturer, Dr. Pattama Nitthaisong（タイ王国・King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang）
5. “Feeding value of cassava pulp for cattle”
Researcher, Dr. Ornvimol Kaeokliang（タイ王国・Department of Livestock Development, Thailand）
6. 「飼料用サトウキビの生産・利用技術の開発」
服部 育男 教授（東海大学農学部）

コメンテーター：

- ・黒木 邦彦 主任研究員（宮崎県畜産試験場酪農飼料部）酪農飼料部の取組
- ・鬼目 祥次 代表取締役（有限会社 鬼目養鶏場, 宮崎県小林市）蹄耕法によるバヒア放牧